藤前干潟・名古屋港の歴史にふれる

～ 藤前干潟周辺の昔の様子を元漁師さんに聞きました ～

ユースが全国各地で湿地を取材、魅力を発信！ Youth Research Project

愛知県名古屋市の南西部、名古屋港のなかに広がる藤前干潟。大潮の干潮時には約200ヘクタールの干潟が現れます。かつてはゴミの最終処分場予定地として埋め立ての危機にありましたが、市民による長年の保全活動により1999年に埋め立て計画は中止。2002年にはラムサール条約に登録され現在に至っています。旅鳥であるハマシギやダイシャクシギ、ダイゼンなどのシギ・チドリ類の重要な中継地のひとつであり、アナジャコ、ヤマトオサガニ、トビハゼといった底生生物の貴重な生息地でもあります。周囲を大規模な港湾施設や工場に囲まれた、大都会に残された「生きものたちのオアシス」というべき場所です。

いまは埋め立て地に囲まれポツンと藤前干潟だけが残されていますが、かつてはその周囲に10倍以上の面積の干潟が広がっており、そこは漁師たちのかっこうの漁場となっていました。そんな干潟や遠浅の海で漁業を営んでいた元漁師の犬飼一夫さん（名古屋市中川区下之一色町在住）に、かつての漁業の様子や名古屋港の歴史についてお聞きしました。

今回お話を伺った人

犬飼一夫さん

昭和6（1931）年生まれ。元漁師。
小学生の頃から父親に連れられて漁船に乗り漁を手伝っていた。
昭和39年、名古屋港の高潮防波堤建設に伴い漁師を引退。漁師引退後は「はしけ」の船頭を20年勤めた。
現在は、藤前干潟で行われる様々なプログラムの講師や、名古屋市博物館などの展示に協力。かつての名古屋港や伊勢湾の様子を多くの人たちに伝える活動をしている。

※はしけ → 河川・港湾などで大型船と陸との間を往復して、貨物や乗客を運ぶ小舟のこと。

埋め立て地に囲まれた藤前干潟

○犬飼さんに聞きました！

【漁師だった頃の思い出】

ユース　漁師をはじめたきっかけは何ですか？

犬飼さん　物心ついたときには船に乗って漁に出ていた。父親が漁師だったから、ごく自然に漁師になった。

ユース　どんなものを獲っていたんですか？

犬飼さん　ボラなどの浮魚（うきうお）やエビを獲っていた。
海苔の養殖もやっていた。**「下之一色」**は名古屋で一番、大きな漁師町だったけど、貝を獲る漁師、魚を獲る漁師とそれぞれいた。いまの藤前干潟のあたりで、カキの養殖をやっている漁師もいた。魚や貝、カニやエビいろんな種類が獲れたから、それだけ漁師も多かった。

キーワード「下之一色」

かつて名古屋に5つあった漁師町のなかで最大の町。最盛期の昭和20年代には、1200人以上の漁師が暮らし、400隻もの漁船があったと言われる。藤前干潟から5kmほど川を遡ったあたりにあり、町中ではいまだに漁師町の名残を感じることができる。

ユース　漁師をやっていて良かったことは？逆に大変だったことは何ですか？

犬飼さん　特に良かったということはなかったけど楽しかった。大変だったのは、子どものときに突風に吹かれて夜の海に落ちたこと。船は先に進んで行っちゃうし、死ぬかと思った。

【漁師をやめることになったきっかけ】

ユース　漁師をやめることになったきっかけは何ですか？

犬飼さん　昭和34年の**「伊勢湾台風」**がきっかけだった。けど、その前から川の上流から黒い水が流れてきたり水が汚れてきた。汚れた廃水を流している工場に抗議にも行ったがダメだった。
海苔のできが悪くなったり、魚や貝の身から洗剤の臭いがするようになったりもした。

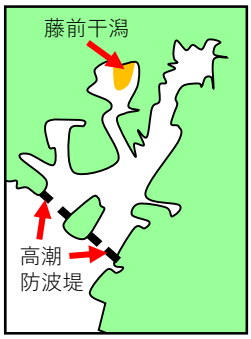
ユース　伊勢湾台風の被害はどんな感じだったんですか？

犬飼さん　高潮で、あちこちで堤防が崩れて、海みたいに水浸しになったところもあった。１ヶ月以上、水に浸かったままの家もあった。下之一色には使える船が残ってたから、船に県の人を乗せて災害地をまわったり、復旧の工事現場に水や食料を運んだりもした。

> キーワード「伊勢湾台風」
>
> 昭和34（1959）年9月26日に東海地方を襲った未曾有の大災害。台風により発生した「高潮」によって多くの人が亡くなっており、全国で死者、行方不明者、合わせて5098名。名古屋市では死者、行方不明者、合わせて1909名もの方が犠牲となった。

ユース　伊勢湾台風の後は、どんな変化があったんですか？

犬飼さん　伊勢湾台風の後で防災のために**「高潮防波堤」**を造ることになって、大きな船の航路を残して名古屋港が閉め切られることになった。
港の埋め立ても進むことになって漁師を続けられなくなった。
漁師は最初みんな防波堤建設に反対したけど、台風の被害を見てるから「防災のため」と言われると、仕方ないと思うようになった。
でも、**伊勢湾台風がなかったらまだ漁師を続けていたかもしれない。**



いまの名古屋港の略図
黒線が高潮防波堤

【漁師をやめた後】

ユース　漁師をやめた後は、どんなお仕事をしてたんですか？

犬飼さん　はしけの船頭をやってたよ。大きな貨物船から小さな船に荷物を移して港に運ぶ仕事。漁師をやめて海から離れた仲間も多かったけど、やっぱり海から離れられなかった。

ユース　魚を獲りに行ったりはしなかったんですか？

犬飼さん　漁師をやめた後、仲間と船を買って、遊びで魚を獲ることはあった。でも、子どもや孫と一緒に漁師ができたら良かったと思うよ。

> **犬飼さんにとっての藤前干潟**
>
> もっと広く干潟が残ると良かったけど、それでも藤前干潟を残すことができて良かったと思う。
> センターもできたから、もっとたくさんの人に来てほしいよ。昔の海の様子を、たくさんの人に伝えていきたい。

取材を終えて　～犬飼さんの話をたくさんの人に伝えたい～

名古屋港に犬飼さんみたいに「最後の漁師」と呼ばれる人がいることを、この取材の機会があるまで知らなかった。だから、今回、実際に体験した話を人から間接的に聞くんじゃなくて、直に体験に近い話を聞くことができて、とても貴重なことが学べてよかった。この犬飼さんの話を、もっとたくさんの人に知ってほしいと思った。（根岸奈央）

今回、名古屋港最後の漁師、犬飼一夫さんにお話を伺い、昔の漁師さんはとてもたいへんだということを知った。犬飼さんは最後まで漁師を続けたということを知り素敵だと思った。（伊藤三津葉）

藤前干潟へのアクセス

庄内川河口部には稲永ビジターセンターと名古屋市野鳥観察館が、新川・日光川河口部には藤前活動センターがあります。それぞれのアクセスは以下のとおりです。

○稲永ビジターセンター、名古屋市野鳥観察館
（庄内川河口部の干潟）
◇あおなみ線【野跡駅】下車、徒歩約１０分
◇地下鉄「築地口」駅から市バス【野跡駅】下車徒歩約１０分
その他、名古屋駅、金山駅から【野跡駅】行きの市バス運行

○藤前活動センター（新川河口、日光川河口部の干潟）
◇三重交通バス　名古屋駅「名鉄バスセンター」より「サンビーチ日光川行き」に乗って【南陽町藤前】下車。徒歩約１５分
◇名古屋市営バス　「港区役所」より「サンビーチ日光川行き」に乗って終点下車。徒歩約２０分

ユースリサーチプロジェクト　ー藤前干潟ー
実施：2016年12月18日（発行2017年４月４日）　取材：根岸奈央、伊藤三津葉
取材：発行：ユースラムサールジャパン　TEL／FAX 052-446-8489
E-mail　youth.ramsar.japan2015@gmail.com
URL　http://youth-ramsar-japan.jimdo.com/
Facebook　www.facebook.com/youthramsarjapan

本報告は「地球環境基金」の助成により作成しました。